



岩城少年自然の家だより

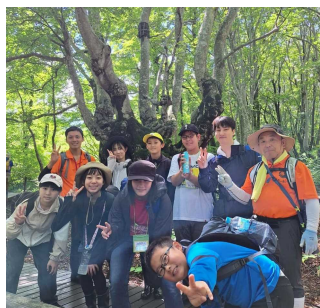
自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2025年7月） 1,145,890 名 7月の利用者数 1,817 名

秋田県立岩城少年自然の家
(ガンパル岩城) 2025. 8. 22

協賛 glassy water adventurer

わんぱくキャンプ（夏）



由利地区の豊かな自然を直接体験する機会

8月7～9日の二泊三日の日程で「わんぱくキャンプ（夏）」を開催しました。

本事業は当施設を代表する人気事業です。申込み初日から多数の応募があり、当選倍率2.1倍をクリアした20名の子どもたちが岩城少年自然の家に集いました。

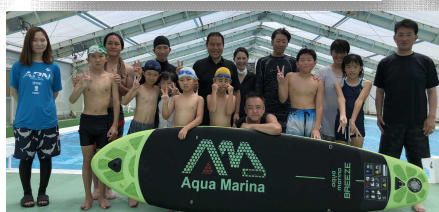
由利地区の豊かな自然の中で、子どもだけの集団生活を通じて「人・もの・自然」に直接触れる機会をとり、一人一人の自律性や協働性を育むことを目的に、豪雨から一転晴天へとめまぐるしく天候が変わる中、子どもたちはにかほ市の湿原や岩城の森で元気に活動しました。

事業の担当者は、子どもたちのために6月から準備を始めました。初の取組である虫取りに向けた事前の実践、子どもたちに冷たいそうめんを食べさせるための準備、そして、カートンドッグ作りに向けた材料の準備など、楽しみながら懸命に事業に向き合っていました。三日間の体験をとおして、職員の思いが子どもたちに伝わったのであれば幸いです。

退所の際の子どもたちの表情からは、由利地区の自然や歴史に直接触れる体験を通じて、「自らを律する力、仲間と協力して成し遂げる力、体験を共にした仲間」を得たのではないかと感じました。

事業の様子は、AKT秋田テレビ「土曜の情報缶詰どっかん！」で、8月23日（土）午後4時30分頃から放送予定です。

後援と協賛を基盤とした地域ネットワークの拠点に



今年度、地域の企業の方々に主催事業への協力をお願いする機会をとりました。その中で「地域の資源を活用した成人向け新規事業」について説明した結果、企業と連携した広報活動が可能となり、成人に向けた事業の周知が進みました。併せて、由利本荘市・にかほ市の両教育長より後援をいただき、両市広報への事業の掲載、ケーブルテレビ局を活用した事業の告知が可能になりました。さらに、ケーブルテレビ番組での新規主催事業の放送、協賛企業から事業参加者への特典の提供等も始まりました。

こうした、後援団体や協賛企業との連携を基盤とした事業の展開は、主催事業参加者の平均年齢を20歳以上引き下げ、事業参加後に改めて当施設を利用する、協賛企業へ足を運び地域を知る、などの人の流れを生み出しました。

今、当施設の指導チームでは「宿泊研修終了後の企業・団体の利用促進」に向けた検討を開始しています。当施設の職員たちは10年先の将来を見据えて歩み始めています。

9月の予定

受け入れ団体等

美里小学校	2日 (火)	追分小学校	11日 (木) ~ 12日 (金)
金浦小学校	4日 (木) ~ 5日 (金)	岩谷小学校	18日 (木) ~ 19日 (金)
高清水寿光園	8日 (月)	院内小学校	18日 (木) ~ 19日 (金)
河辺小学校2年	9日 (火)	日本赤十字社秋田支部	21日 (日)
尾崎・子吉・小友小学校5年	10日 (水)	岩城小学校	25日 (木) ~ 26日 (金)
		矢島小学校	25日 (木) ~ 26日 (金)

<主催事業>

キッズキャンプ 27日 (土)

令和7年度新規主催事業の講師陣



BROVIS 前田憲麻 講師



釣り東北 伊藤克朗 講師



サンアムニエー 金澤直樹 講師



glassy water adventure 松山英宏 講師



天寿酒造 大井将樹 講師

今年度は「地域ネットワークの構築」を運営の重点に据え、後援・協賛の二市・十企業と連携して成人を含むより幅広い年齢層の方々に向けた事業に取り組んでいます。今まで、様々な業種の方と対話し、優れた地域講師陣と出会い、新たな事業展開の局面を迎えました。新規主催事業では、20～60歳代の労働中核世代の参加者が交流し、新たなコミュニティを形成しています。

少年自然の家が備える「社会教育施設としての可能性」を感じています。